日高版

資源管理を徹底

200グラム未満、海中に還元

様似の真ツブ

日高中央漁協

山中孝俊監事

十役正信さん

盛漁期の真ツブ。浜値も堅調だ(21日、様似漁港)

日高中央漁協のツブかごは、限りある資源を持続的に利用するため、着業者が組織的に資源管理を徹底。様似支所では、真ツブの漁獲を重さ200グラム以上の個体に制限し、規格に満たないサイズを海中還元している。

同支所では10トン未満船4隻が通年着業。第38漁吉丸（9・7トン）の山中孝俊監事は「資源は年々、減少傾向にある。他の海域から回遊してくる魚類と違い、資源管理は自分たちの責任」ときっぱり。

真ツブの漁獲サイズは、一般的に150グラム以上と定めている浜が多いが、「ここでは自主的に200グラム以上」と山中監事。かご漁船は沖で選別し、刺網で混獲されたものは陸上で選別後、海中還元している。刺網業者との協力体制も整っている。

漁場は水深120～150メートル。餌の冷凍マイワシを入れたかご250～800個を仕掛ける。午前2時ころ出港し、同8時ころ帰港する。

7月は盛漁期。21日、様似漁港に戻った第36誇漁丸（9・7トン）の十役正信さんは「まずまずの漁だ。浜値も最近は堅調だ」と話す。

同漁協本支所合わせた4月から7月20日までのツブ（灯台ツブ、毛ツブ除く）累計水揚げは、数量が昨年7月末比5％減の50トン、金額5％減の4313万円、キロ平均単価は850円。

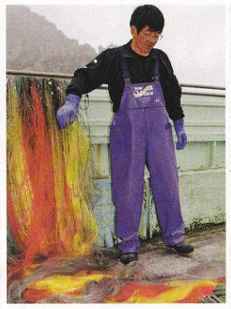
このうち、金額の8割以上を占める真ツブは数量12％減の34トン、金額7％減の3530万円、キロ平均6％高の1035円となっている。

マツカワ刺網

活出荷で浜値2割高

日網操業・目合いも大きめ

小関由夫さん


次の漁に向け網の準備をする泉澤盛敏さん(上)と様似支所の水槽で出荷を待つマツカワ(21日)

マツカワは、日高で獲れるカレイ類の中でも、冬場のババガレイと並ぶ高級魚。さらに活魚で上場すれば、浜値が一般鮮魚より2割ほど高くなるため、日高中央漁協様似支所の刺網業者は短時間の日網で活出荷に努めている。

漁場は距岸200メートルと近く、水深8～10メートルと浅め。50～60間切り10反1本の網で、良い日は1隻100尾前後を漁獲することもある。

第78天龍丸（6トン）の泉澤盛敏さんの網は5寸7分目。「網から外す際に魚体を傷めないように」するためだ。強い魚だが、「死にやすい」という。午前5時出港、同7時戻りの短時間操業も商品価値を保つ工夫だ。

6寸目の網を使う大心丸（3・7トン）の小関由夫さんは「小型魚を獲らないようにする目的もある」と話す。「体長35センチ未満は海中還元」というルールも守られている。

同漁協全体の4月から7月20日までの累計水揚げは、数量が昨年7月末比17％減の2トン、金額5％減の210万円、キロ平均単価15％高の945円。このうち3割近くが活で、浜値は全体平均に比べ14％高の1076円となっている。

人工増殖の成果

「昨年の夏もかなり揚げた。人工増殖の成果だ」と小関さんは確信している。マツカワ増殖は、えりも町から旧南茅部町までの官民が一体で取り組んでいる。平成18年には胆振の伊達市に種苗生産拠点が完成、えりも町に中間育成施設もできた。

以降、毎年100万尾の人工種苗が生産され、日高管内で45万～51万尾の稚魚が放流されてきた。

道日高振興局の高橋研司水産振興係長によると、事業開始前は3～6トンとわずかだった漁獲量が、19年12トン、20年44トン、21年61トンに急増。事業効果は明白だ。

事業費用は漁業者も負担している。通常はマツカワ水揚金額の10％、日高管内は自主的に20％を拠出している。

(株)石垣のウォータージェット推進機

低速域重視「ハイスラストジェット」を搭載

定置船初となる低速域重視タイプのウォータージェット推進機(下)を搭載し、進水した第23魁丸

船主「推力抜群」

サケ積載時、速力アップに好感

沙留・定置船「第23魁丸」

小泉昇船主

沙留漁協所属の定置船「第23魁丸」（FRP8・5トン、小泉昇船主）が、㈱石垣（本社・東京、石垣真社長）の低速域重視タイプのウォータージェット推進機「ハイスラストジェット」を搭載、このほど進水した。低速航行でも高い推力を発揮する特別設計で、定置船では初採用。小泉船主は「推力が抜群に強く、主機の馬力に見合ったスピードを出せる」と太鼓判を押す。

ウォータージェット推進機は、船底から水を吸い込み、船尾から噴射して船を推し進める方式。今回、採用した低速域重視タイプは、大口径の羽根車を搭載し、スムーズな加速、低速域での高い推進効率を発揮。積荷の重量変化に対するエンジン負担が少なく、出漁時と水揚げ後の帰港時で荷重負荷が異なる定置船に適している。

材質は、耐食アルミ、ステンレス鋼を採用し、軽量で高い耐久性も確保。小泉船主は、主機、推進機の更新に当たり、推力の低下、激しい振動、プロペラの壊食などを引き起こす「キャビテーション」が発生しにくい点や速力アップなどの効果に期待し、採用を決めた。

主機は、従来の408馬力から630馬力にパワーアップ。小泉船主は乗り心地を確認し、「空荷で18～19ノットと倍以上のスピードアップを実現できた。スクリュープロペラ式では、現在の船型で主機の馬力を上げても18ノットを出すのは難しいだろう。予想以上に推力がある」と評価。「サケを積んだ重荷重時にも従来よりスピードアップ、操船性の向上が期待できる」と手応えを得ている。

また、今月下旬から網の型入れなど今季の操業に向けた作業を開始するが、「スクリュープロペラ式とは違って外部に突出物がなく、網やロープを巻き込む心配がない」と実感。「1回でも利き、網の上を走って移動できる。作業効率は格段にアップできる」と話す。

同推進機は、石垣が純国産で製造、地元・興部町の㈲北海マリンディーゼル（鈴木光秋社長、電話0158・83・2813）が納品。定置船第1号の搭載で「浜で性能を聞かれるなど反響があり、他船も関心を持っているよう」と小泉船主。今季の秋サケ漁で、同船の操業に注目が集まりそうだ。

問い合わせ先
▷㈱石垣ポンプ・ジェット事業部ジェット営業部　東京都中央区京橋1-1-1、八重洲ダイビル、電話03・3274・9991　FAX03・3274・3538

世界の釣針
MARUTO
マルトの釣針
コマ印サルカン
タコ針
東京製綱のジンカール
鋼線独占使用!!
株式会社 土肥富
兵庫県加東市新定382-3 ☎(0795)46-0001㈹